

ぷらたなす

NO.3

水無月

(みなづき)

長井高等学校

図書委員会

図書館

2024.6.17

読書によって点数UPかも?

薄暑の候、だんだんと気温が上がり、梅雨の季節となりました。

さて、みなさんテストが近づいてきて勉強漬けの日々になりリラックスできていますか。リラックスできていないという方は勉強の間に本を読んでみませんか。読書には大きなリフレッシュ効果があり、その効果は、散歩をしたり、コーヒーを飲んだりするよりも大きいと言われています。

部活の大会も減り、空き時間が増えた人も多いと思います。少しでも本を読んでリラックスしませんか。

(2-3 図書委員)

図書館長より

押忍！ 図書館長です。敬体は字数を食うので、今回から、挨拶以外は常体で。

さて、今月新たに蔵書に加えたのは、わらびもちきなこの『しあわせ鳥見んぐ』(芳文社)。四人の女子大生がバードウォッチングを楽しむ、いわゆる「日常系」だ。「学校図書館に萌え漫画かよ！ 第2号から飛ばしてるな！ 鳥だけにね！」と仰天した諸君、安心して欲しい。本作が本館の書架に並ぶに相応しい理由を、紙幅の都合上、二つだけ説明しよう。

一つは、本作の舞台が、ここ山形だということ。四人のうち二人は芸工大、もう二人は山大をモデルとした大学に通っており、作中には、霞城公園、馬見ヶ崎川、百目鬼温泉、飛鳥、熊野大社、蔵王坊平高原……と、見慣れた景色が広がっている。さらに、登場人物の名字は、「宮内」、「時庭」、「今泉」、「荒砥」、「梨郷」、「大塚」と、フラワー長井線の駅名にちなんでいる。「ふるさとの魅力の再発見」、「持続可能な自然環境の保護」、「ツーリズムによる地方の発展」などは、探究活動でよく取り上げられるテーマだが、その資料としての価値を、本作は大いに有している。実際、定期船とびしまとコラボしたガイドマップが、山形新聞で取り上げられたほか、県内はもちろん、仙台や秋葉原でも絶賛配布中だ。また、「聖地」を訪れたファンが、交通機関を利用したり、名物に舌鼓を打ったり、その様子をSNSに投稿したりして、本県の経済の活性化と知名度の向上に貢献してくれている。

もう一つは、本作が、鳥見を通じて自己を形成していく物語(ビルドゥングスロマン)だということ。君達からは大人に見えるかも知れないが、大学生なんて、まだまだ嘴が黄色い若鳥だ。能天気に見える彼女達も、「私とは？」という内なる嵐に翻弄されながら、仲間と一緒に、少しずつ、大空の飛び方を覚えていく。ほとんど同年代の君達にも、共感できるところが、きっとあるんじゃないかな。

以上、駆け足ながら。ぜひ読んでみてね。

図書委員のおすすめの本

『100万回生きた猫』

佐野洋子：著

講談社

「大切な人」と言われてあなたは誰を思い浮かべますか。家族や友人、恩師など人によって様々な人を思い浮かべると思います。

この本は「愛すること」の大切さを教えてくれる絵本です。

ある時100万回生きる猫が出会ったのは一匹の白猫でした。愛することを知らない猫はその白猫を通して愛する大切さを知っていきます。しかし、月日は流れ、白猫はある日突然動かなくなりました。大切な存在を失った猫は毎日泣き続けー。

百万回生きた猫。彼が最後に迎えた結末とは……。

きっと昔この本を読んだ人も多いはず。ぜひ、童心に返ってあなたの大切な人と読んでみてはどうでしょうか。